

小中一貫教育目標『志を持ち たくましく生きる人』
学校教育目標『夢に向かい 心豊かに 自ら学ぶ』

鷹 根



沼津市立愛鷹中学校

学校だより NO.9

令和3年10月15日

全校生徒の歓声、空に響き渡る!!

昨日10月14日(木)、鷹根祭体育の部を実施しました。新型コロナ第5波の影響で、生徒会本部役員は何度も何度も計画を練り直し、今回のような形態に収まり、行う運びとなりました。

緊急事態宣言が明けた10月1日から、感染状況の様子・警戒レベルの変化を見ながら、本格的に準備を進めてきましたが、生徒一人一人が鷹根祭を自分ごととしてとらえ、一生懸命に取り組んでいたように思います。本番では、自分の役割を果たしながら、競技では全力で臨み、クラスや学年の団結と友情を深め、学校全体として大変大きな手応えをつかみました。

保護者・地域の来賓の方々をお招きすることができず、大変申しわけありませんでしたが、生徒がこの状況下で、自分たちで考え、自分たちでねばり強く努力し、力を精一杯出すことができたのは、皆様のお力添えがあったからこそと考えております。ありがとうございました。

以下、学校を牽引してきた3年生の心のこもった言葉を掲載したいと思います。

◇体育の部実行委員長《体育の部開会式の言葉》

みなさん、おはようございます。日がさして、運動場もよく乾いています。

本来、鷹根祭体育の部は、夏休み明けに練習が始まって、本番までに約1ヶ月あって、その期間で競技一つ一つを完成に近づけていくものです。しかし、今年は練習を開始するのも、緊急事態宣言の影響で遅くなってしまいました。さらに、練習できる期間もだいぶ短くなってしまいました。わたしはこのことを受けて、最初に思ったことは、悔しいというきもちでした。3年生は最後の鷹根祭で文化の部がなくなってしまい、体育の部も制限がかかり、鷹根祭以外の行事も元の形とは違う他の形に変わってしまいました。しかしそのようななかでも一日一日のなかで決められた時間を大切にして、一生懸命練習しようとしているクラスの姿がありました。だからわたしも、「みんな受け止めて、前に向かっていく」と感じ頑張ろうと思えました。そして、今年の鷹根祭のスローガンは「翼の傷はNo Problem! 拳を上げ勝利へはばたけgo forit!」です。このスローガンに込められた意味は、「練習等でつらいことや傷つくことがあると思うけれど、そんなことは問題ない。全ては勝利に向けて必要なこと。勝利に向かって頑張ろう」という意味が込められています。だから、今までの練習の中に仲間との衝突があったとしても、勝ちたいという仲間の気持ちは同じであり、本番でも必ず団結できると思います。さらに、今年も鷹根祭の基本方針は、「一人一役」です。クラスの一員として、ついた役職の一員として、何か貢献できた、やりきった、と思えるように。「スローガン」、「クラスの仲間との協力」、「一人一人に与えられた仕事」これらを意識して、全力で、今までの努力を発揮できる鷹根祭にしましょう。

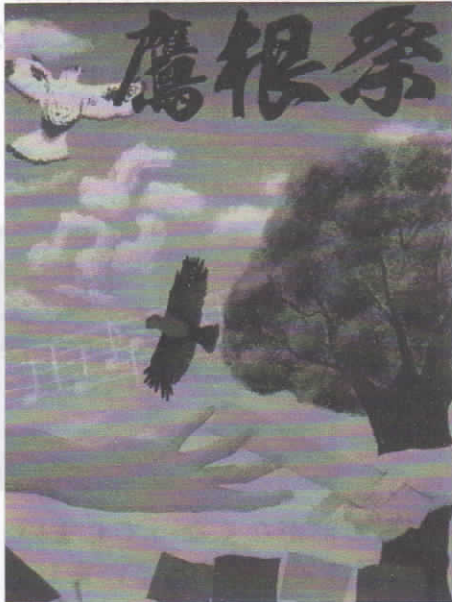


▽紅軍応援団長《体育の部を終えて・振り返りから》

今回の鷹根祭体育の部で応援団長を務めました。感じたことは達成感と喜びです。練習期間が短いなかで応援団長が自分に努まるのか不安でした。朝と放課後の練習で何度も挫けそうになりました。しかし、自分の声に応じてくれる仲間や全力で支えてくれた先生方の存在があり、今では応援団長をやりきって良かったと思います。今まで本気で取り組むことが怖かった部分もありましたが、本気で取り組み一生懸命のかっこよさを実感しました。自分についてきてくれてありがとうございます。押忍！

▽白軍応援団長

応援団長になった時から、みんなの代表として頑張ろうと思っていました。しかし、練習が始まると思うように練習に出れず、みんなから遅れをとってとても不安でした。ですが、振りとセリフをしっかり覚えて自分の中で自信をもって本番に臨みました。本番では一般の生徒の声と応援団の声が一緒になりとても素晴らしいものとなってとてもうれしかったです。僕についてきてくれた団員、生徒のみなさんに感謝したいです。ありがとうございました。押忍！



○鷹根祭ポスター展最優秀賞

各クラス色の赤、黄、青、橙の旗、紅白の旗、紅白が混ざったピンクのバトン、紅組、白組、各クラスそれぞれがんばってほしいという思いを込めました。木や鷹で愛鷹のたくさんの自然を意識し、雲の音符は合唱をイメージしています。みんなでより良い鷹根祭をつくりたいです。



□鷹根祭実行委員長《体育の部閉会式の言葉》

間もなく鷹根祭が終わろうとしています。みなさんも今回の鷹根祭、それまでの道のりを振り返ってみてください。

今年も、コロナウイルスの影響により様々な制限がかかってしまいました。夏休みが延長され、色々な行事が中止、縮小される中、この鷹根祭も今までのものではなくなってしまいました。そんなときでも、新しいことを始め、実行することができました。しかし、新しいことを始めることは、決して簡単なことではありません。これは生徒全員が協力をしたことで可能にすることができたのだと思います。この鷹根祭もそのようなことの集大成になったはずです。いま皆さんの顔に表れている達成感は、全員が協力し、全体でも、一人ひとりにとっても最高の鷹根祭にすることができたためにうまれた表情なのだと思います。

僕は、「みんなが協力しあえる」というものが、この愛鷹中の伝統なのだと思います。そして、コロナ禍の時代になってから、よりこの伝統が強まっていると感じました。いつかこのコロナの時代はきっと終わります。しかし、伝統は終わらしてはいけません。コロナが終わり、また違った世の中になったとしても、愛鷹中の自慢の団結力は変えずに残してほしいと思います。

